

## PATENT ABSTRACTS OF JAPAN

(11)Publication number : 05-011987

(43)Date of publication of application : 22.01.1993

(51)Int.Cl.

G06F 9/06

G06F 12/00

(21)Application number : 03-163251

(71)Applicant : NEC CORP

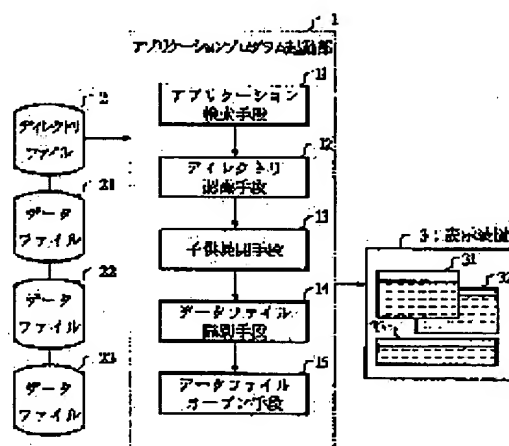
(22)Date of filing : 04.07.1991

(72)Inventor : SUGIURA AKINORI

**(54) APPLICATION PROGRAM STARTING METHOD****(57)Abstract:**

**PURPOSE:** To eliminate the troublesome job of specifying each data file to be used and then opening it, one by one, for the purpose of starting an application program on an operating system which provides a hierarchial file system.

**CONSTITUTION:** An identifier which identifies to which application program a particular file belongs, is provided as in the case of a data file, to a directory file, and when a file is specified, an application retrieving means 11 and a directory identifying means 12 examine to which application program a directory file belongs. If the specified file is a directory file, the file is developed and the identical data file with the identifier of the application program which the directory file has is extracted by a data file identifying means 14. The extracted data file is opened by a data file opening means, and the retrieved application program is started.

**LEGAL STATUS**

[Date of request for examination]

[Date of sending the examiner's decision of rejection]

[Kind of final disposal of application other than the examiner's decision of rejection or application converted registration]

[Date of final disposal for application]

[Patent number]

[Date of registration]

[Number of appeal against examiner's decision of rejection]

[Date of requesting appeal against examiner's decision of rejection]

[Date of extinction of right]

Copyright (C); 1998,2003 Japan Patent Office

**THIS PAGE BLANK (USPTO)**

(19)日本国特許庁 (J-P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11)特許出願公開番号

特開平5-11987

(43)公開日 平成5年(1993)1月22日

(51)Int.Cl.<sup>5</sup>

G 0 6 F 9/06  
12/00

識別記号

4 1 0 S 8944-5B  
5 1 4 Z 8944-5B

庁内整理番号

F I

技術表示箇所

審査請求 未請求 請求項の数1(全 5 頁)

(21)出願番号 特願平3-163251

(22)出願日 平成3年(1991)7月4日

(71)出願人 000004237

日本電気株式会社  
東京都港区芝五丁目7番1号

(72)発明者 杉浦 明則

東京都港区芝五丁目7番1号日本電気株式  
会社内

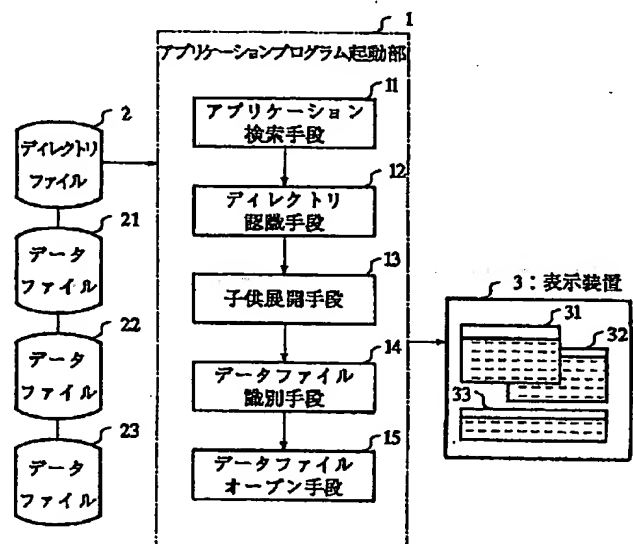
(74)代理人 弁理士 内原 晋

(54)【発明の名称】 アプリケーションプログラム起動方式

(57)【要約】

【目的】 階層ファイルシステムを提供するオペレーティングシステムのもとでのアプリケーションプログラムの起動に、使用するデータファイルを一つ一つ指定してオープンする煩雑をなくする。

【構成】 ディレクトリファイルにデータファイルと同様にどのアプリケーションプログラムのファイルであるかを認識する識別子を備えておき、ファイルを指定したとき、どのアプリケーションプログラムのディレクトリファイルであるかをアプリケーション検索手段11とディレクトリ識別手段12とで調べる。指定されたファイルがディレクトリファイルであればファイルを展開してディレクトリファイルが持つアプリケーションプログラムの識別子と同じデータファイルをデータファイル識別手段14で抽出する。抽出されたデータファイルをデータファイルオープン手段によりオープンすると共に検索されているアプリケーションプログラムを起動する。



## -----【特許請求の範囲】-----

【請求項1】 階層ファイルシステムを提供するオペレーティングシステムのもとでのアプリケーションプログラム起動方式において、データファイルと同様にどのアプリケーションプログラムのファイルであるかを認識する識別子を備えたディレクトリファイルと、指定されたファイルの識別子からそのファイルを使用するアプリケーションプログラムを抽出するアプリケーション検索手段と、このアプリケーション検索手段でアプリケーションプログラムの判明したファイルがデータファイルであるかディレクトリファイルであるかを認識するディレクトリ認識手段と、このディレクトリ認識手段でディレクトリファイルと認識したディレクトリファイルに格納されているデータファイルを展開してこのディレクトリファイルのアプリケーションプログラムの識別子と等しい識別子を持つ全てのデータファイルを抽出するデータファイル識別手段と、このデータファイル識別手段で抽出された子供のデータファイルをオープンすると共にアプリケーションプログラムを起動するデータファイルオープン手段とを有することを特徴とするアプリケーションプログラム起動方式。

## 【発明の詳細な説明】

## 【0001】

【産業上の利用分野】 本発明はアプリケーションプログラム起動方式、特に階層ファイルシステムを提供するオペレーティングシステムのもとで起動されるアプリケーションプログラム起動方式に関する。

## 【0002】

【従来の技術】 階層ファイルシステムは、一般に通常のデータファイルの他にディレクトリファイルと称されるファイルが存在する。ディレクトリファイルはデータを格納する代りにデータファイル名またはディレクトリファイル名を格納する。従ってデータファイルはデータファイル名を格納したディレクトリファイルの子供として扱われ、ディレクトリファイル名を格納したディレクトリファイルからは孫として扱われる。このようにして構築される階層ファイルシステムにおいて、一般にデータファイルは、データファイルを起動することが許されるアプリケーションプログラムの識別子を持ち、データファイルが特定のアプリケーションプログラムのデータファイルであることが認識されるようになっている。

【0003】 従来、上述したような階層ファイルシステムにおけるアプリケーションプログラムは、アプリケーションプログラムの識別子を持つ単一、もしくは複数のデータファイルを指定した後に、データファイルのオープン操作と共に起動されるとか、データファイルのオープン操作を行なうことなく起動され、その後データファイルのオープンを行なっている。

## 【0004】

【発明が解決しようとする課題】 上述した従来のアプリ

ケーションプログラム起動方式は、アプリケーションプログラムを起動する際に、オープンしたいデータファイルを一つ一つ指示するか、または何も指示せず起動して、アプリケーションプログラム内のファイルオープン操作でオープンしたいデータファイルを一つ一つ指示しなければならない、特に複数のデータファイルを同時にオープンし作業を進める場合には、操作者に大きな負担をかけるという問題点を有している。

## 【0005】

【課題を解決するための手段】 本発明のアプリケーションプログラム起動方式は、階層ファイルシステムを提供するオペレーティングシステムのもとでのアプリケーションプログラム起動方式において、データファイルと同様にどのアプリケーションプログラムのファイルであるかを認識する識別子を備えたディレクトリファイルと、指定されたファイルの識別子からそのファイルを使用するアプリケーションプログラムを抽出するアプリケーション検索手段と、このアプリケーション検索手段でアプリケーションプログラムの判明したファイルがデータファイルであるかディレクトリファイルであるかを認識するディレクトリ認識手段と、このディレクトリ認識手段でディレクトリファイルと認識したディレクトリファイルに格納されているデータファイルを展開してこのディレクトリファイルのアプリケーションプログラムの識別子と等しい識別子を持つ全てのデータファイルを抽出するデータファイル識別手段と、このデータファイル識別手段で抽出された子供のデータファイルをオープンすると共にアプリケーションプログラムを起動するデータファイルオープン手段とを有することにより構成される。

## 【0006】

【実施例】 次に、本発明について図面を参照して説明する。

【0007】 図1は本発明の一実施例の構成図である。図1の実施例は、オペレーティングシステムが提供する階層ファイルシステムのディレクトリファイル2およびデータファイル21、～、23、オペレーティングシステムにおけるアプリケーションプログラム起動部1およびシステムの表示装置3が示されていて、アプリケーションプログラム起動部1はアプリケーション検索手段11、ディレクトリ認識手段12、子供展開手段13、データファイル識別手段14およびデータファイルオープン手段15から構成されている。

【0008】 図3は図1の処理を説明するための階層ファイルシステムの一例を示す図である。この例ではアプリケーションプログラムがワードプロセッサであって、データファイルはワードプロセッサが読み書きする文書ファイルであり、ワードプロセッサはファイル名拡張子“ . 文 ”の付加されたデータファイルを読み書き可能な文書ファイルであると認識するものとする。即ち、ここではファイル拡張子“ . 文 ”をワードプロセッサである

アプリケーションプログラムの識別子とする。従ってディレクトリファイルもファイル拡張子を持つことが許される。操作者はワードプロセッサを用いて文書を作成しており“第一章. 文”というディレクトリファイル202と“第二章. 文”というディレクトリファイル203とを“文書”というディレクトリファイル201を上位にもって階層ファイルシステムを利用して登録している。ディレクトリファイル202は三つの文章ファイルであるデータファイル211, ~, 213から構成され、全ての文章ファイルは拡張子“. 文”をもっているの、ワードプロセッサで編集可能である。またディレクトリファイル203は一つの文書ファイルであるデータファイル214と一つの図形ファイルであるデータファイル215とから構成され、ワードプロセッサでオープンできるのはデータファイル214のみである。

【0009】図2は図1の処理を図3の階層ファイルシステムを例にしたフローチャートである。以下図2を参照して図1の処理について説明を進める。先ず操作者は文書ファイルであるデータファイル211, ~, 213を一つ一つオープンする代りにディレクトリファイル202のオープン操作を行なう。するとアプリケーション検索手段11は指定されたディレクトリファイル202の拡張子を調べ、この拡張子を持つファイルをデータファイルとして扱うアプリケーションプログラムが存在するか否かを調べる(ステップ101)。ディレクトリファイル202は拡張子“. 文”を持ち、ワードプロセッサが扱うデータファイルであるので、アプリケーションプログラムありとしてディレクトリ認識手段12によりディレクトリファイルであるかを調べる(ステップ102)。この場合にはディレクトリファイルであるので、子供展開手段13によりディレクトリファイル202を展開してデータファイル211, ~, 213を得る(ステップ103)。次いで、データファイル識別手段14によりデータファイル211, ~, 213がワード

プロセッサのデータファイルである拡張子“. 文”を有する文書ファイルであるかが調べられ(ステップ104)、拡張子“. 文”を持つ文書ファイルのみがデータファイルオープン手段15に伝えられて、実際に文書ファイルがオープンされる。このときワードプロセッサも同時に起動される(ステップ105)。以上の結果、オープンされた文書ファイルを表示装置3に表示する。

【0010】

【発明の効果】以上説明したように本発明は、ディレクトリファイルに格納しているデータファイル名のデータファイルのオープンが許されるアプリケーションプログラムの識別子を備えていることにより、ディレクトリファイルのオープン操作のみで該当するアプリケーションプログラムの起動と共に、そのアプリケーションプログラムの全てのデータファイルが同時にオープンされるので、操作者のファイル管理およびファイルオープン操作の負担を軽減できるという効果がある。

【図面の簡単な説明】

【図1】本発明の一実施例の構成図である。

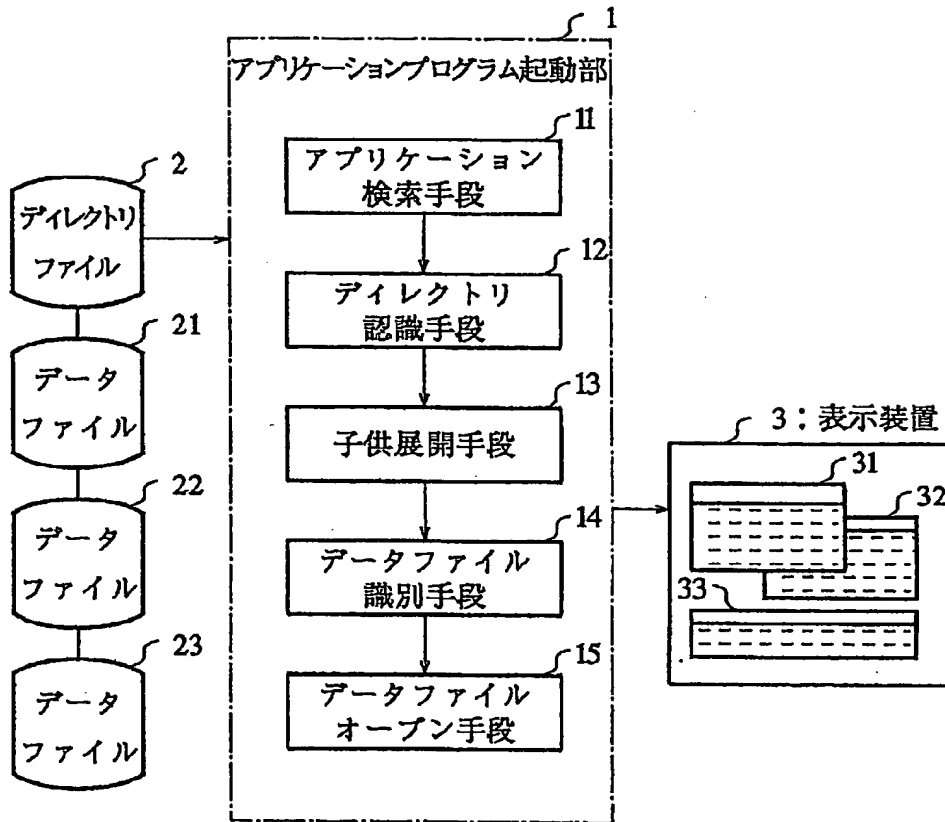
【図2】図1の処理の一例を示すフローチャートである。

【図3】図1の処理が適用される階層ファイルシステムの一例を示す図である。

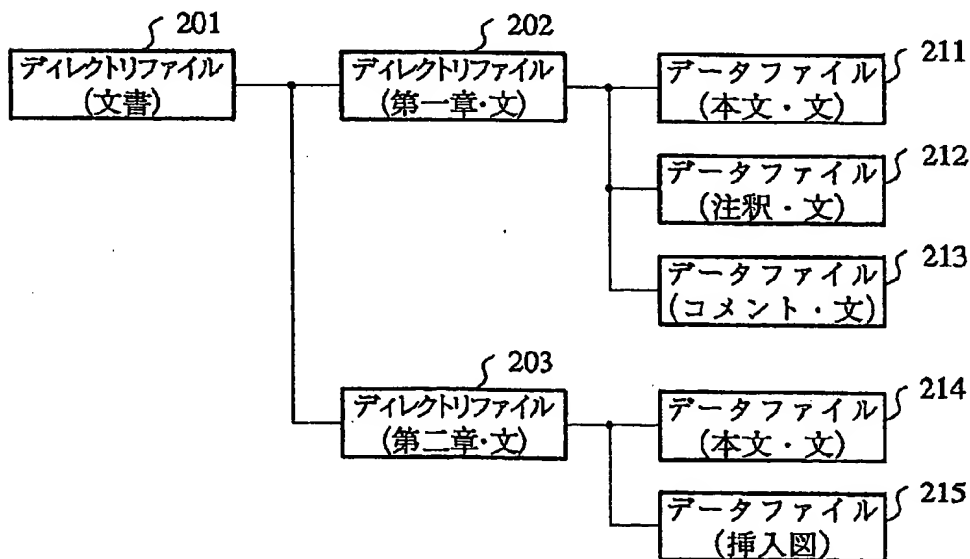
【符号の説明】

- 1 アプリケーションプログラム起動部
- 2 ディレクトリファイル
- 3 表示装置
- 11 アプリケーションプログラム検索手段
- 12 ディレクトリ認識手段
- 13 子供展開手段
- 14 データファイル認識手段
- 15 データファイルオープン手段
- 21, 22, 23 データファイル

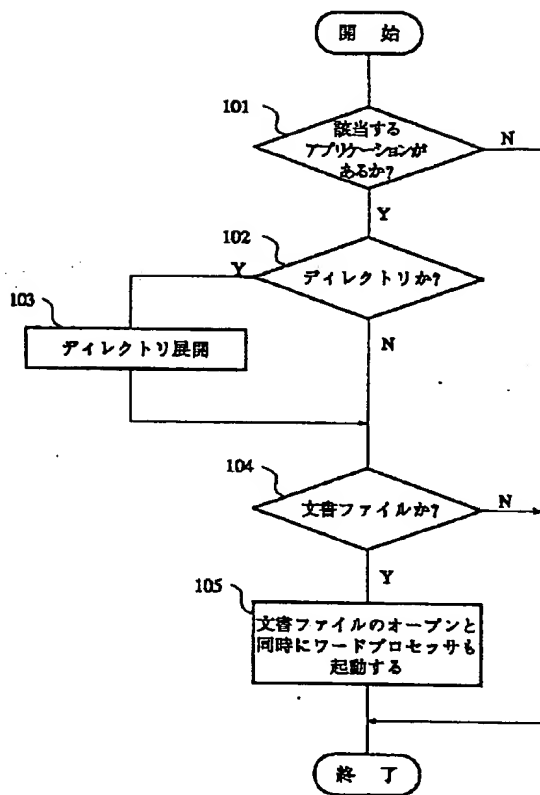
【図1】



【図3】



【図2】



**THIS PAGE BLANK (USPTO)**